



改訂：2014年7月25日

# Web Fairy Paradise

今月のフェアリー詰将棋

- 第 63 回 WFP フェアリー作品展 (再掲)
- 第 64 回 WFP フェアリー作品展
- Fairy of the Forest #40
- 第 79 回 推理将棋出題
- 第 80 回 推理将棋出題

結果発表

- 第 78 回 推理将棋出題
- カピタン展示室 No.24

読み物

- なし

**第73号**



**2014/7**



### 詰将棋全国大会

本号発行と同じ日に、第 30 回詰将棋全国大会が開催されています。今年は私のバドミントンの試合と日程がずれて(先週の日曜日でした)参加のチャンスではあったのですが、連休全てに仕事が入るといふ運の無さ。せめて関西ならどうかしと思うのだけれど、さすがに川崎ではいかんともし難く。

毎回全国大会のの雰囲気だけをネットの上だけで感じております。次に行けるのはいつかなあ～～。

今年の全国大会、私の注目は 11 時～13 時までの交流タイムでの「フェアリー詰将棋コーナー」です。担当は最近 WFP で数作発表されている会場さんですので、透明駒を中心にきっと楽しい世界を紹介して頂けると期待しています。(WFP の紹介もよろしくね)

当日の様子のレポートも是非よろしくお願ひします。

13 時からの大会内でもミニ解答競技で協力詰が出題されるようでそちらも気になります。

スタッフの皆さん大変でしょうが、大会が盛況であります事をお祈り申し上げます。

バドミントンの試合に向けて頭がバドミントンモードに切り替わっておりましたが、試合も無事終わり(次は四国大会)、少しずつ詰将棋モードに切り替えて行こうと思います。次月詰四会がありますので、そちらへの参加も皆さんよろしくお願ひいたします。

## 【募集】

### 作品

フェアリー作品、PG、推理将棋はそれぞれの投稿先へ投稿下さい。

### 読み物

フェアリー詰将棋に関するものに限らず日常のことも研究物でも 4 コマ漫画からパロディ、イラスト、マイベスト 10、自己紹介、何でも OK です。

### 感想

第 73 号の感想、今後の要望、ご意見等なんでも結構です。是非メールにて私まで

皆様の反応が私の意欲に成りますので是非ご協力をお願いします。

読み物、感想の投稿はこちらまで

たくぼん：[takuji@dokidoki.ne.jp](mailto:takuji@dokidoki.ne.jp)

---

### 協力いただいている方々の HP アドレス

\*ご協力感謝します

#### 妖精都市

<http://www.geocities.jp/cavesfairy/>

#### 詰将棋メモ

<http://toybox.tea-nifty.com/>

#### 詰将棋おもちゃ箱

<http://www.ne.jp/asahi/tetsu/toybox/>

#### Onsite Fairy Mate

<http://www.abz.jp/~k7ro/>

#### K.Komine's Home Page

<http://19900504.web.fc2.com/index.html>

## 第63回WFP作品展(再々掲)及び 第64回WFP作品展

担当：神無七郎

先月号で「近代将棋」に載ったフェアリーとして「安南詰」を紹介しましたが、「ばか詰」が2作紹介されている例を見つけました。近代将棋 1980年6月号「駅馬車」のコーナーです。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
			角	香	王	香	角		二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
						王			三
									四
				香		香			五
					桂				六
									七
									八
									九

持駒 角

今ではフェアリーを出題する時には手数を書くのが当たり前ですが、この2題には手数が書かれていません。本誌の読者の皆さんであれば、手数表示がなくとも正解に辿り着くのは容易だと思うので、読者の皆さんも当時の近代将棋読者と同じ条件で解図を行ってください。(易しいので解答は省略します。)同じ号には自作の結果発表(不完全)もあり、当然この記事には目を通してはいたはずですが、あまり記憶がありません。ただ、初形「一」の方の図は、記憶の片隅に引っ掛かっていたのでしょう。どういうわけか、見た瞬間に「あの作だ」と思いました。

なお、この2作の作者は川崎弘之氏です。川崎弘氏と名前が似ていますが、住所が違うので、おそらく別人ですね。今でもフェアリーを続けているのかどうか分かりませんが、時代背景を考えると、最古参のフェアリー愛好家の一人と言って間違いありません。まだ見ぬ同好の士のため、敢えて「近代将棋」でフェアリーを発表した、その意気を讃えましょう。

### 〔第63回作品展各題への補足説明〕(再掲)

第63回の出題は全20題。ツインが1題あるので実質21題です。個々に見れば極端な難解作はないと思いますが、何しろ出題数が多いので、計画的な解図が必要です。本作品展に初登場の作者の方もいらっしゃいますので、ぜひ多くの解答をお寄せください。

**63-1** 及び **63-2** はDD++氏による「持駒推理」です。持駒推理は時風瑞季氏が考案したルールですが、一種の作図問題ですので、特別な知識は必要ありません。攻方の持駒を適切に設定して、出題図を完全作にしてください。

**63-3** は上谷直希氏の「キルケ」作品。ある有名手筋がキルケならではの手順で表現されます。

**63-4** は本誌初登場の御堂和柁氏の作品。ルールは(筆者個人にとっては)ちょっと懐かしい「アンチキルケ」です。このルールは初めてとか、ルールを忘れたという方は、たくぼん氏の「アンチキルケ入門」(<http://www.dokidoki.ne.jp/home2/takuji/AntiCirce.html>)をご覧ください。

**63-5** 及び **63-6** は橘圭伍氏お得意の「キルケ」の協力自玉詰。どちらもある「元ネタ」を応用したもので、表現の仕方に違いがあります。

**63-6** には受方持駒制限があるので、こちらの方が易しいかもしれません。

**63-7** は改めて上谷直希氏の登場。こちらは氏が得意としている複合マドラシです。複合マドラシでは、相互的ではなく一方のみが石化されるという状況が起こります。手数は短くても手ごわいかもしれません。

**63-8** 及び **63-9** はたくぼん氏の **Andernach** 作品。作者自身がルールに慣れるために作った作品ということですが、解答者にとってもこれはルールに慣れるチャンスだと思います。

**63-10**~**63-13** は小林看空氏の **Andernachlsardam** シリーズ。ただでさえ慣れない **Andernach** に **lsardam** が加わって、かなりとっつきにくいと思いますが、前回の神無太郎氏のシリーズ及び例題などを参考に解図をお願いします。

**63-14** と **63-15** も **Andernachlsardam** ですが、作者はいつも解答の方で活躍されている占魚亭氏です。まずは **63-14** で肩慣らしをして **63-15** に挑戦、ですね。

**63-16**~**63-18** はフェアリー駒と中立駒を使った作品。こう聞けば、もう作者は変寝夢氏だ

と分かるでしょう。**63-16** で使われているフェアリー駒は **Empress** (后)。飛と騎が合わさった利きを持つ駒です。前回 **62-4** で **Princess**(姫) という角と騎が合わさった利きを持つ駒が登場しましたが、やはりチェスの世界でも、駒の力関係は「飛>角」なのでしょう。また **63-17** では中国象棋の馬 (**Mao**) という駒が登場します。これは性能としては騎とほとんど同じ八方桂なのですが、騎と異なり障害物によってその動きを止めることが可能です。(これは「塞馬脚」と呼ばれます。) つまり、合駒が可能ということで、日本の詰将棋でも結構使えそうな駒です。そして、**63-18** は中立駒を使ったツイン。受方の持駒の設定が **a)b)** で少し異なっており、**a)** は単に残り全部 (中立駒は数に入れませんが)、**b)** は攻方持駒の香が減っている代わりに、受方の持駒に中立駒の角が加わっています。この違いが手順の違いにどう影響するか注目ですね。

**63-19** と **63-20** は「透明人間の逆襲」の記事で「透明駒」を詰パラデビューさせたご本人、会場健大氏の作品。もちろん本作品展では初登場です。**63-19** では「連続王手の千日手の禁止」という指し将棋のルールが適用され、同一局面4回となる手を指すことができません。ちょっとネタばらし的になってしまいますが、本作品展では「連続王手の千日手の禁止」はローカルルール扱いなので、常にそのルールの使用と適用条件を明示して出題します。今後、この規定を利用した作品を投稿される方も、その点については予め念頭に置いてください。**63-20** には「成禁」の条件が付いていますが、これは手順中の「成」を禁止するだけで、初形に成駒がある可能性を排除しません。

#### 〔第64回作品展各題への補足説明〕

第64回の出題は全14題。もうこれくらいの出題数は普通になってしまいましたね。問題数が多いだけでなく、複合ルールが多く、全部解くのは相当難しいと思われるので、解けた分だけでも解答を送ってくださるようお願いいたします。

**64-1**～**64-3** は新ルールの開拓を意欲的に進めている変寝夢氏の作品です。

まず **64-1** は受方玉がないのが目を惹きます。ルールが「非連続王手」(=王手義務なし)なので、受方玉がなくても良いのです。自玉詰でなく受先の協力詰にしても実質的には同じです

が、これは作者の好みでしょう。次に目を惹くのが盤上に攻方の駒しかないこと。これで受方の持駒が「なし」ならお手上げですが、幸い受方には持駒が2枚あります。この2枚は中立駒なので、ちょっと使い方が難しいですが、解いてみれば、なぜ普通の駒ではなく中立駒なのかははっきり分かると思います。

**64-2** は **Mao** をもじった **Moa** という駒が登場する作品。**Mao** (馬) は中国象棋の「合駒の利く八方桂」で、**Moa** も「合駒の利く八方桂」。跳び先もまったく同じです。では何が違うかと言うと、利きを遮断できる場所が違います。**Mao** は上下左右が埋まっているときその先に進めないので、**Moa** は斜めが埋まっているとその先に進めません。つまり、途中の経路が違うわけですね。しかし **Mao** のアナグラムで **Moa** とは、巧い命名があったもの。**Moa** と名付けられた鳥は絶滅してしまいましたが、因果は巡り、詰物の世界で復活を遂げました。せめて盤上で在りし日の雄姿を偲びましょう。

**64-3** は久々登場の **Lion** という駒です。前回登場したのは第49回 WFP 作品展ですが、その時は「Li」とそのまま表記していました。今度は神無次郎氏発案の「鬘」を使用しています。ちょっと画数が多いので、解答時は適当に書きやすい記号を使って構いません。**Lion** の性能に慣れていない方は、**49-7** 変寝夢氏作を参考にしてください。

**64-4**～**64-11** は複数の作者(神無太郎、上谷直希、小林看空の各氏)による **Andernach** 及び **Isardam** の効果を使った作品。**AndernachIsardam** はまだ作例が少ないルールですが、f mでも正式にサポートされ、ちょっと手数が長めの作品でも割と安心して創作ができるようになりました。全部手数二桁の作品ばかりですが、頑張って挑戦してみてください。

なお最初の原稿では間違っ全部「**AndernachIsardam**」で出題してしまったのですが、**64-7** は「**Andernach**」単独の使用でした。お詫びして訂正します。ただし「**AndernachIsardam**」で解いても同じ手順が正解となるはずですので、それで解いてしまった方でも訂正の必要はありません。

**64-12** は占魚亭氏による背面マドラシ作品です。複合マドラシは難しい作品が多いので、特別に大ヒントを出しましょう。本局の前半には

「○○○○」が出てきません！

**64-13** は本作品展初登場となるチャンプ氏による推理将棋。角を追いつつ、先手玉を詰めよという問題です。ただし、条件の「縦横の十字方向からの角取りが可能」は「縦または横方向からの角取りが可能」と解釈してください。「縦横両どちらの方向からでも角取りが可能」ではありません。

**64-14** は橘氏お得意のキルケ作品。初形を見ただけでどの駒で自玉を詰めるのか見当が付くと思いますが、問題はそれを実現する方法。果たしてどんな手順が現れるのでしょうか？

**解答要項**

第 63 回分解答締切：2014 年 8 月 15 日（金）

第 64 回分解答締切：2014 年 9 月 15 日（月）

宛先：janacek789@ybb.ne.jp（メールの件名に「解答」の語句を入れてください。）

**作品投稿について**

作品投稿は随時受け付けます。（原則として毎月 15 日の投稿まで当月号に掲載します。）宛先は解答と同じ janacek789@ybb.ne.jp へ。メールの件名に「作品投稿」の語句を入れてください。添付ファイルも可。機械検討済みなら出力結果のファイル添付を推奨します。

**ルール説明**

**【協力詰】**

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

**【持駒推理】**

図が与えられた手数で完全作となるように攻方の持駒を設定する。

**【キルケ】**

駒取りがあったとき取られた駒が、最も近い将棋での指し始め位置に戻される  
戻り方等は以下の細則に従う

- 1) 成駒は生駒になって戻る。
- 2) 戻り位置が埋まっていたり、二歩や行き所の無い駒になったりする場合は戻れない。
- 3) 駒取り時、駒が戻るまでを一手と見なす。
- 4) 金銀桂香（成駒も含む）が 5 筋で取られ、複数の戻り先候補がある場合、戻る位置を選択できる。

**【アンチキルケ】**

駒取りがあったとき取った方の駒が、最も近

い将棋での指し始め位置に戻される。

戻り方等は以下の細則に従う

- 1) 成駒は成ったまま戻る。
- 2) 戻り位置に駒があったり自玉に王手が掛かっていたりするため、戻れない場合は戻らない。
- 3) 駒取り時、駒が戻るまでを一手と見なす。
- 4) 金銀桂香（成駒も含む）が 5 筋で駒取りを行い、複数の戻り先候補がある場合、戻る位置を選択できる。片方にのみ戻れる場合は強制的にそちらに戻る。

**【協力自玉詰】**

先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

**【安北】**

味方の駒が縦に並ぶと、下の駒の利きは上の駒の利きになる。

**【マドラシ】**

同種の敵駒の利きに入ると、利きがなくなる。

**【安北マドラシ】**

安北とマドラシを両方適用する。  
順序は安北、マドラシの順。

**【Andernach】**

駒取りを行った駒（玉を除く）は、その場で相手の駒となる。

**（補足）**

- ・取ると二歩になる場合相手の駒にならない
- ・駒の向きの転換は成生の選択の後に行われ、成生の選択権は駒を取った側にある
- ・駒取りの場合に限り、8 段目への桂の不成、9 段目への桂香歩の不成が可能（二歩の例外を除く）

**【Isardam】**

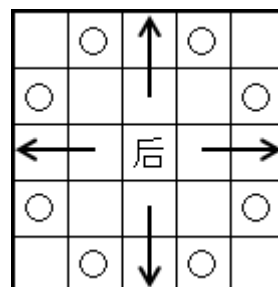
同種の敵駒の利きに入る手を禁止する。  
玉を取ると同種の敵駒の利きに入る場合は王手とみなさない。（タイプ A）

**【AndernachIsardam】**

Andernach 及び Isardam を両方適用する。

**【Empress】（后）**

フェアリーチェスの Empress。  
飛とナイトを合わせた利きを持つ。

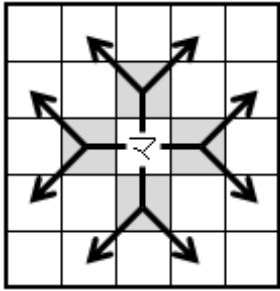


（○に着手する、または矢印の方向に走ることができる。）



【Mao】(マ)

中国象棋の馬 (Mao)。合駒の利く八方桂。



(一旦前後左右に一マス進み、次いで斜めに一マス進んだ場所に着地する。網掛けで示した所に駒があると、その先のマスに進めない。)

【中立駒】(「𪛗」あるいは「n駒」)

どちらの手番でも動かせる駒。

横向きの字か横に n を付加して表記。

→詳細は WFP61 号の「中立駒の紹介」の記事を参照してください。

【成禁】

手順中に成る手があってはならない。

【透明駒】

位置・種類が不明の駒。

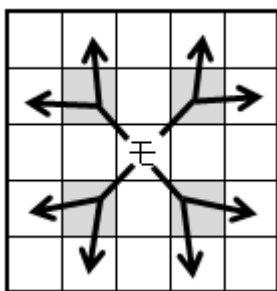
着手の合法性、攻方王手義務を満たせる可能性があれば、それを満たしているものとして手順を進めることができる。

→透明駒の詳細及び例題は詰将棋パラダイス 2013年11月号の「透明人間の逆襲」または「詰将棋における透明駒の説明」(<http://tsumesugi.blogspot.jp/2014/03/blog-post.html>)を参照してください。

【非連続王手】攻方に王手の義務がない。

【Moa】(モ)

中国象棋の馬 (Mao) の斜め版。合駒の利く八方桂。Mao が上下左右のマスに駒があると先に進めないのに対し、Moa は斜めのマスに駒があると先に進めない。

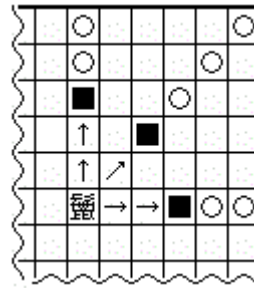


(一旦斜めに一マス進み、次いで縦横に一マス進んだ八方桂の位置に着地する。網掛けで示した所に駒があると、その先のマスに進めない。)

【Lion】

フェアリーチェスの Lion (鬣)。

クイーンの利きの方向にある駒を1つ跳び越えその先の任意のマスに着地する。着地点に敵駒があれば取れる。



(○が鬣の利き。

■は敵または味方の駒。○の地点が埋まっていると、その先には跳べない。)

【打歩】

打歩詰以外の詰手を禁手とする。

【背面】

敵駒と背中合わせになったとき、互いに利きが入り替わる。

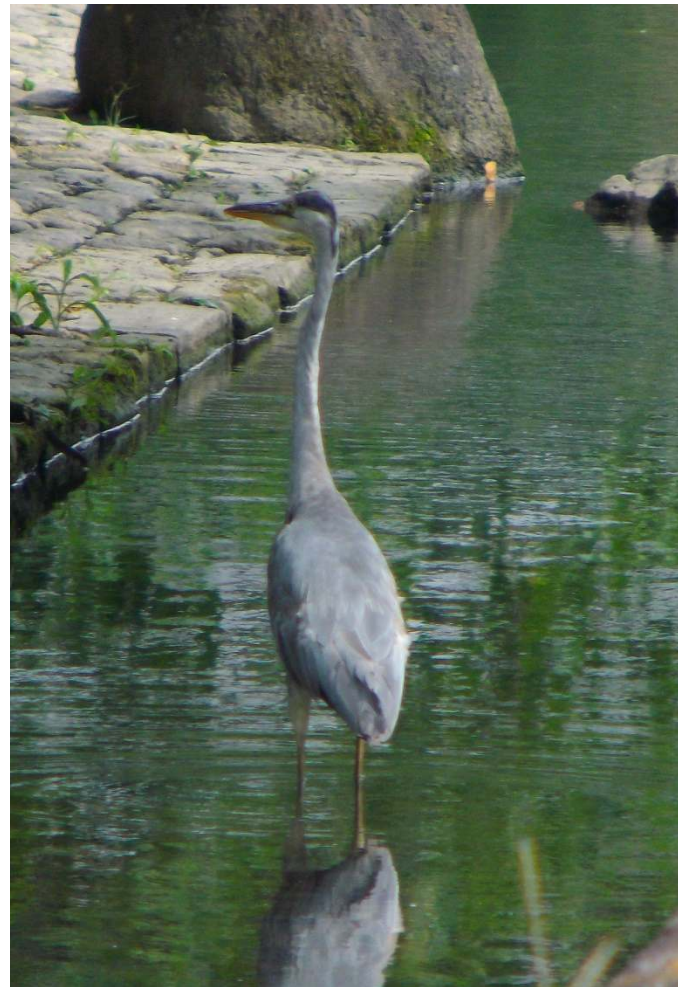
【背面マドラシ】

背面とマドラシを両方適用する。

順序は背面、マドラシの順。

【推理将棋】

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元する。



《第 63 回 WFP 作品展》

解答締切：2014 年 8 月 15 日（金）

■ 63-1 DD++氏作

持駒推理協力詰 7手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
					王				三
									四
				科		駒			五
					王	科			六
									七
									八
						桂		歩	九

持駒 ?

■ 63-2 DD++氏作

持駒推理協力詰 9手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
					歩	歩	歩		四
						王	科	駒	五
								駒	六
					桂	歩	歩	王	七
									八
									九

持駒 ?

■ 63-3 上谷直希氏作

キルケ協力詰 9手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
		角							三
		駒							四
王		王							五
		歩							六
									七
									八
									九

持駒 歩

■ 63-4 御堂和柁氏作

アンチキルケ協力詰 9手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
		王	角						三
		駒							四
			ス		ス				五
				ス					六
									七
									八
									九

持駒 なし

■ 63-5 橘圭伍氏作

キルケ協力自玉詰 12手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

			龍						一
王	馬		歩						二
	歩		歩						三
	歩	王							四
									五
									六
									七
									八
				龍					九

持駒 なし

■ 63-6 橘圭伍氏作

キルケ協力自玉詰 16手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

	と							王	一
王	駒								二
			馬			香			三
									四
									五
								龍	六
									七
									八
ス									九

攻方持駒 なし

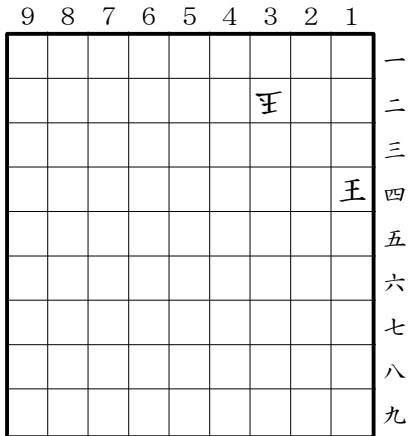
受方持駒 なし





■ 63-13 小林看空氏作

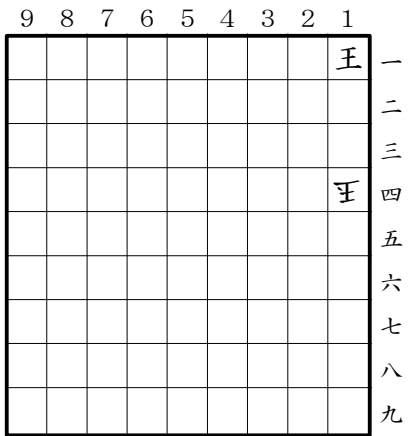
AndernachIsardam協力詰 13手



持駒 飛

■ 63-14 占魚亭氏作

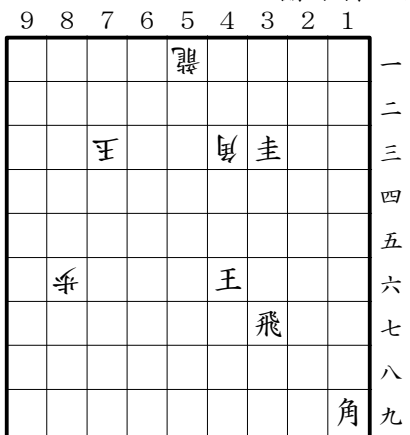
AndernachIsardam協力自玉詰 4手



持駒 飛角

■ 63-15 占魚亭氏作

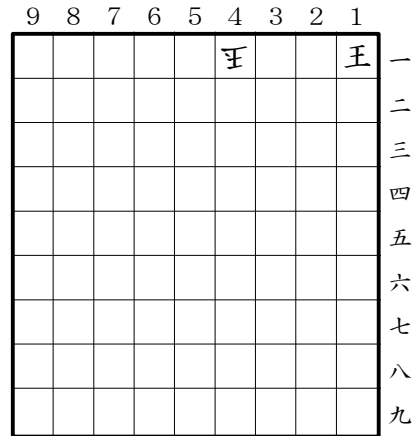
AndernachIsardam協力自玉詰 12手



持駒 なし

■ 63-16 変寝夢氏作

協力自玉詰 6手

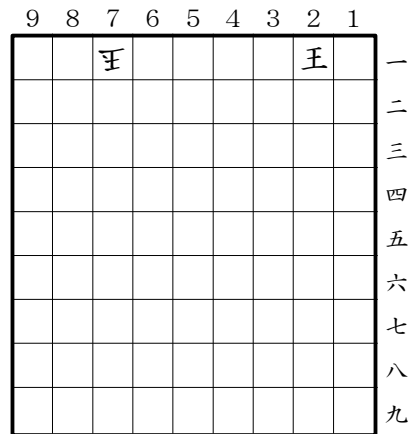


持駒 后

(后=Empress : 飛+騎)

■ 63-17 変寝夢氏作

協力自玉詰 6手

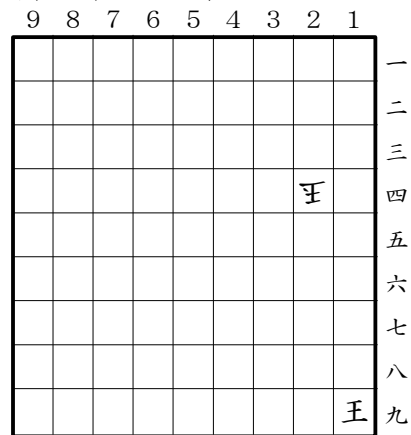


持駒 マ2

(マ=Mao)

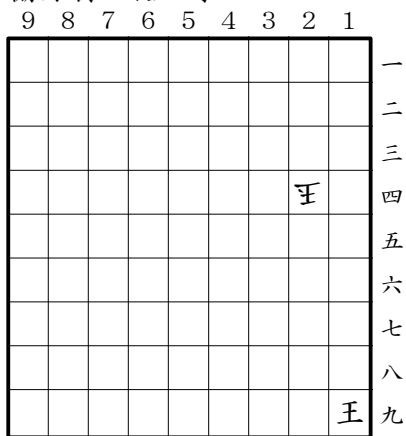
■ 63-18 変寝夢氏作

a) 協力自玉詰 4手



持駒 n飛香

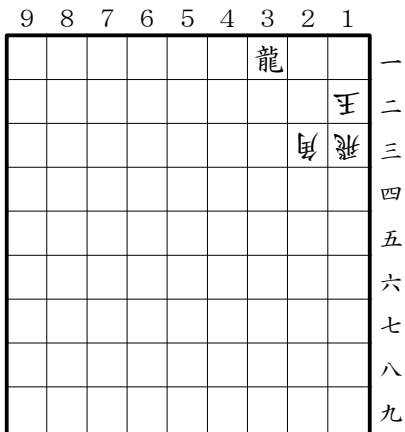
b) 協力自玉詰 4手



攻方持駒 n飛  
受方持駒 残り駒全部、n角

■ 63-19 會場健大氏作

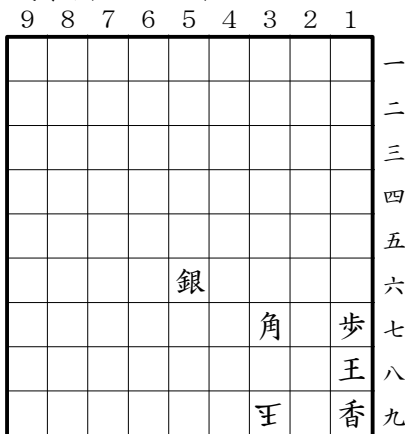
詰将棋 13手



持駒 なし  
透明駒 攻方1枚、受方0枚  
連続王手の千日手禁止

■ 63-20 會場健大氏作

成禁協力詰 7手



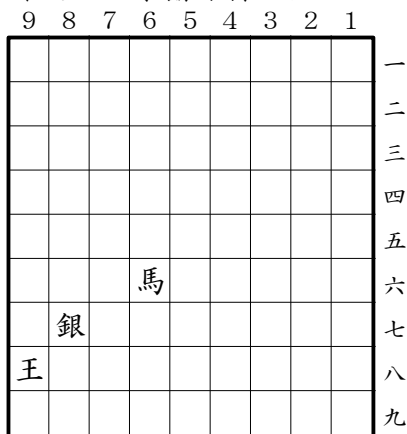
攻方持駒 なし  
受方持駒 なし  
透明駒 攻方1枚、受方1枚

《第 64 回 WFP 作品展》

解答締切：2014 年 9 月 15 日 (月)

■ 64-1 変寝夢氏作

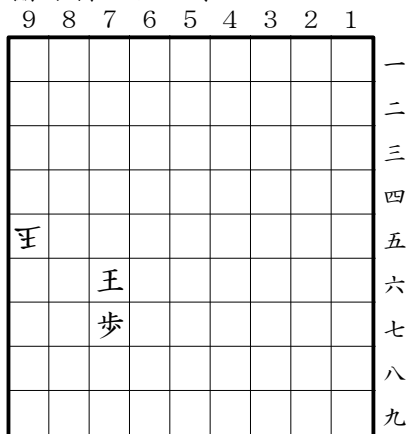
非連続王手協力自玉詰 4手



攻方持駒 なし  
受方持駒 n角 n香

■ 64-2 変寝夢氏作

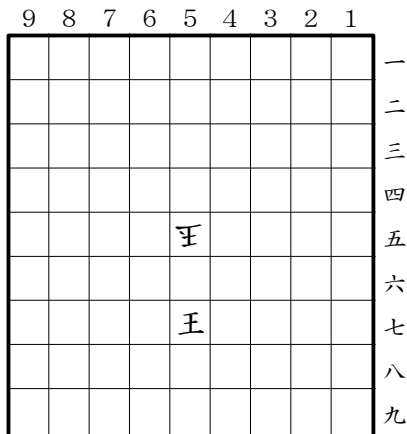
協力自玉詰 6手



持駒 毛3  
(毛：Moa)

■ 64-3 変寝夢氏作

協力自玉詰 6手



持駒 桂鬣  
(鬣：Lion)



■ 64-10 小林看空氏作

AndernachIsardam協力自玉詰 20手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
香	桂	銀	金	王	銀	桂			一
	飛					角	王		二
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 角 金 香

■ 64-11 小林看空氏作

AndernachIsardam協力自玉詰 20手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
香	桂	銀	金	王	銀	桂	香		一
	飛					角			二
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	三
									四
							王		五
									六
							桂		七
									八
									九

持駒 角 金 銀

■ 64-12 占魚亭氏作

背面マドラシ協力詰 9手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
							歩		三
						王			四
									五
					角				六
								王	七
									八
									九

持駒 桂

■ 64-13 チャンプ氏作

推理将棋『角への執着の果て』

「さっきの将棋、10手目に君が歩で角取りをした局面だけを見たんだけど結局どうだったの？」

「実はあの将棋4手目から最後まで縦横の十字方向から角取りを掛け続けたんだよ」

「え？そんな最初の方から執拗に角を追い掛け回してたんだ」

「うん、だけど一局を通じて角を取れる局面が一度もなかったんだ」

「あらら、それは残念だったね、それで何手で負けちゃったの？」

「いや、それが18手目に角取りを掛けたら先手玉が詰んじゃったんだよ」

「勝っちゃったの？それはきっと角の神様が微笑んでくれたんだね」

「でも、角が取れなかったから嬉しさ半分ってとこだけだね」

さて、どんな将棋だったのでしょか？

[条件]

- ・18手で詰み
- ・後手は10手目の歩の着手を含め、4手目から18手目まで縦横の十字方向からの角取りが可能な局面を保ち続けたが、一局を通して一度も角を取れる局面が現れることなく先手玉を詰ました

■ 64-14 橘圭伍氏作

キルケ協力自玉詰 148手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
歩									二
王	王							飛	三
	王						歩	王	四
王	飛								五
王	銀								六
	歩	桂							七
飛	歩								八
	香								九

攻方持駒 なし

受方持駒 なし

以上

## 推理将棋第79回出題

担当：DD++

将棋についての話をヒントに将棋の指し手を復元するパズル、推理将棋の第79回出題です。はじめての方は どんな将棋だったの？ - 推理将棋入門 をごらんください。

解答、感想はメールで2014年7月20日までに TETSU まで (omochabako@nifty.com) メール の 題名は「推理将棋第79回解答」をお願いします。解答者全員の中から抽選で1名に賞品リストからどれでも一つご希望のものをプレゼント！ 1題でも解けたらぜひご解答ください。

今回は古豪渡辺さんから、中級の難解9手と上級の連立11手です。上級が2局組なのでこの2問3局で出題してもよかったのですが、やはり客寄せ作が欲しいのと、渡辺さん作に対する考え方のコツの理解が必要なので私が急遽初級も用意しました。練習問題の解説が大きなヒントになると思いますので、ぜひ理解してから本丸に挑んでください。

### 練習問題

「さっきの将棋、▲76歩△52金左▲33角成△42銀▲43馬△33銀まで見てたけどどうなった？」

「9手で詰んだよ、って言えば残りの3手は分かるよね」

さて、残りの3手はどんな手だったでしょうか。

### ■本出題

#### 79-1 初級 DD++作

右桂の活躍 9手

練習問題の解説を実際に使ってみてください。

#### 79-2 中級 渡辺さん作

銀で応じる 9手

いつもの初級9手ようにはいきません。

#### 79-3 上級 渡辺さん作

#### 金一枚違う

11手×2

連立推理将棋の前例は30-2,3や40-5などを御覧ください。

■締め切り前ヒント (7月14日頃コメント欄に掲載予定 DD++)

#### 79-1 初級 DD++作

右桂の活躍 9手

「さっきの将棋、▲36歩△42金▲37桂まで見てたけどどうなった？」

「9手で詰んだよ、って言えば残りの6手は分かるよね」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・ ▲36歩△42金▲37桂、以下9手で詰んだ

#### 79-2 中級 渡辺さん作

銀で応じる 9手

「この前の9手で詰んだ将棋ってどんな感じだった？」

「駒を成る着手に72銀と応じたり、玉の斜め移動に対して

銀で王手して応じたり…」

「他には？」

「記憶にないよ。この銀で応じた2手だけ印象的だった」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・ 9手で詰んだ
- ・ 駒成の着手に72銀と応じた
- ・ 玉の斜め移動に対して銀で王手して応じた

79-3 上級 渡辺さん作

金一枚違う

11手×2

A「11手で詰めて勝ったよ。ほら」  
 B「奇遇だね。僕もそうだよ。あら、僕のも同じ局面かな？82に銀があるし」  
 A「いや、盤面は同じだけど駒台を見ると僕の方が金一枚多いよ」  
 B「なるほど、実力は金一枚違う、という訳だね。ところで僕は後手の金を同角生と取ったんだ」  
 A「僕もそうだよ。だけど君とはそのときの角移動の左右の向きが違うんだ」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・ 2局とも11手で詰んだ
- ・ 終局図は2局とも盤面は同じで82に銀が居たが、先手の持駒はA君の終局図の方がB君の終局図より金一枚多かった
- ・ 2局とも先手は後手の金を同角生と取ったが、一方の局では1筋側から、他方の局では9筋側から取った

■練習問題解答

問題以下、▲33同馬△41玉▲32銀まで。

詰上り図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	龍	香		王		科	皇	一
	龍			香		銀	皇		二
歩	歩	歩	歩	歩		馬	歩	歩	三
									四
									五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	九

持駒 歩2

今回の渡辺さん作へのステップアップとして、

しっかり解説をしてみましょう。考え方のベースになるのは「敵玉を詰ますには攻め駒は2枚以上必要（単騎詰でない限り）」という明らかな事実。詰将棋では捨て駒に捨て駒を重ねて引き算で2枚残すのが美しいとされていますが、推理将棋の場合はこの2枚を足し算で用意することになります。それをどう足し算するかを考慮すると次の手の選択肢をグッと減らすことができる場合があります。

例えば、この例題。現状の攻め駒は馬1枚だけで、先手が指せるのは残り2手。持ち駒の歩は打てず、自陣から2手で使えそうな駒もありません。ということは攻め駒2枚以上を意識すると、7手目に馬で何か取って、最終手に駒打ちで2枚にする以外に可能性はありませんね。しかも52馬は8手目に馬が取られて攻め駒1枚に逆戻りするので、7手目は「33同馬」「21馬」の2通りだけしっかり考えればよし、となるのです。

このような考え方をする際に有用なもう1つの知識が「角を取れるのは3手目から、桂は4手目から、飛金銀香は5手目から」ということ。これらを組み合わせると例えば「9手で詰み、最終手は銀成」という条件だけでも「5手目に銀を取る順以外は考える必要はないな」などとすることができます。

今回の初級、手なりでも解けるかと思いますが、解けた後になぜその手順が必然なのかまで考えてみるときっと中上級の助けになるはずです。



## 推理将棋第80回出題

担当：DD++

将棋についての話をヒントに将棋の指し手を復元するパズル、推理将棋の第80回出題です。はじめての方は「どんな将棋だったの？」・推理将棋入門 をごらんください。

解答、感想はメールで2014年8月20日までにTETSUまで (omochabako@nifty.com) メールの題名は「推理将棋第80回解答」でお願いします。解答者全員の中から抽選で1名に賞品リストからどれでも一つご希望のものをプレゼント！ 1題でも解けたらぜひご解答ください。

このところ、ツインすなわち2局セットの問題の投稿がちらほら。ツインには大きく3つのタイプがありますので整理してみましょう。1つめが「二解」すなわち全く同じ一組の条件を満たす手順2つを答える問題。おもちゃ箱での採用例はありませんが、32-2の解説で紹介されているこの作品の原案が一例。2つめが「姉妹」すなわちほんのわずかに異なる2作品のセット。例としては72-2,3や65-1,2,3(トリプレットです)で、2問それぞれ独立の問題とみなすこともできます。3つめが「連立」すなわち2局の関係性が条件になっている問題。前回の渡辺さん作が例で、数学の連立方程式のように両局とも答えるまでが1問です。いずれのタイプも2局の手順に明確な対比があることが良作の必要条件です。

今回の出題は初級の姉妹と上級の連立でツイン2組です。初級は投稿が非常に少ないため埋草として担当作を使うことが少なくありませんが、この姉妹作に関してはそうではなく私がずっと機会を待って温存していた自信作の初級。上級は新進気鋭のPontamonさんの連立。条件は言葉にするとやたら複雑に見えますが、(先手)(後手)のところを表にまとめてみるとわかりやすいと思います。攻方の動かす駒がほぼ飛車だけなので前回の渡辺さん作よりは挑みやすいはず。

そして、今回はもう1つお知らせを。私が本コーナーの担当を引き継いだ第43回出題からも

う3年半。さすがにそろそろ新しい風をということで、私DD++はこの第80回出題をもちましてコーナー担当を引退することとなりました。至らぬ点多い担当ではございましたが、暖かく支えてくださった皆様には本当に感謝しています。第81回からはNAOさんが担当していただきます。新担当者へのご祝儀は、奮って解答いただくことと初級問題の投稿を。

### 練習問題

「さっきの将棋、▲78飛△42飛▲76歩△74歩▲75歩△同歩まで見てたけどどうなった？」  
「9手で詰んだよ、って言えば残りの3手は分かるよね」

さて、残りの3手はどんな手だったでしょうか。

### 本出題

#### 80-1 初級 DD++作

##### 将棋ソフトの謎戦術 (A) 9手

条件は棋譜上表記で指定されているので「44角不成」などではダメです。ご注意ください。

#### 80-2 初級 DD++作

##### 将棋ソフトの謎戦術 (B) 9手

何が対比になっている手順かを考えるのもひとつの道です。

#### 80-3 上級 Pontamonさん作

##### 前後反対の鏡 12手×2

12手分の棋譜の枠を用意し、共通部分に印をつける作業から始めるとよいでしょう。

■締め切り前ヒント (8月13日コメント欄に掲載予定 DD++)

#### 80-1 初級 DD++作

##### 将棋ソフトの謎戦術 (A) 9手

「この将棋ソフト、なんか戦術おかしくない？」  
「どうも棋譜に『44角』と記録されると必ず『62飛』と応じるみたいだね。

実際にそのやりとりが行われた棋譜が2つある」

「どちらも9手で詰んでるね。

こちらは先手が成る手2回で銀歩を取ったのか。

もう1つは先手が成る手2回で金歩を取ってるんだね」

「何にしる、このソフトは使い物にはならないね」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・ 9手で詰んだ
- ・ 「44角」に「62飛」と応じた（どちらも棋譜上表記）
- ・ 先手は成る手2回で銀歩を取った

**80-2 初級 DD++作  
将棋ソフトの謎戦術 (B) 9手**

80-1と同じ会話

(条件)

- ・ 9手で詰んだ
- ・ 「44角」に「62飛」と応じた（どちらも棋譜上表記）
- ・ 先手は成る手2回で金歩を取った

**80-3 上級 Pontamonさん作  
前後反対の鏡 12手×2**

A局(?) 「すーさん、これが12手で詰めた終局図だよ。」

B局(す) 「あれっ、デジャヴかな。そうか、僕が12手で詰めた対局と似てるんだ、これだよ。」

(?) 「本当だ、裏から透かしてみると似てるね。鏡って、左右反対じゃなくてこんな風に裏から表を見ている前後反対なんだってね。」

(す) 「へえ、そうなの。それより見比べてみようよ。僕らの飛車の着手は、1マス～5マス移動が一度ずつの5回だね。そのうちの2回は横移動ってところも同じだね。」

(?) 「先手は各手番に着手した駒種は両局とも同じで、7手目は銀だね。1手目と5手目は着手地点も同じなんだ。」

(す) 「2手目は着手地点も駒種も違うけど、4手目は着手地点が同じだね。」

(?) 「違うところは、僕は角を取ったくらいかな。」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・ 両局とも12手で詰んだ
- ・ 両局とも、後手の飛車の着手は、1マス～5マス移動が一度ずつの5回で、そのうち横移動は2回
- ・ (先手) 各手番に着手した駒種は両局とも同じで7手目は銀。1手目と5手目は着手地点も同じ
- ・ (後手) 2手目は着手地点と駒種の両方が異なり、4手目は両局とも着手地点が同じ。
- ・ A局では後手が角を取った。

■練習問題解答

問題以下、▲同飛△52金右▲71飛成まで。

詰上り図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	桂	龍		王	金	銀	桂	香	
二					金	飛		角		
三	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	
四										
五										
六										
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八		角								
九	香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	

持駒 銀歩

飛車を使った有名な攻め筋。この一段目の龍の横利きを使う単騎詰は、推理将棋黎明期にはてるまさんが発見したので「はてるま手筋」と呼ばれます。最短では8手から可能ですね。

一桁手数だと居玉に対して△39龍や▲71龍とする形がほとんどですが、二桁手数だと別の筋ではてるま手筋、あるいは二段目での龍単騎詰などいろいろな応用形も作ることができ、作意でも余詰でもよく登場する形となります。



# 推理将棋第78回出題解説

担当：DD++

出題：平成26年5月23日  
 解答締切：平成26年6月20日

今回は、簡単だけれど面白みのある初級、奇想天外な中級、本格派難題の上級、いずれも好評でした。毎回こうバランスよく良問を出題したいものです。

## 78-1 初級 DD++作 無気力試合

12手

「この前、とってもやる気のない指し手と対局してさ」  
 「へえ、どんな感じだったの？」  
 「1枚の歩を突き続けるだけで他は何もしてこないんだ」  
 「12手目に最奥で強制的に成って、14手目はどうしたの？」  
 「さあね。こっちもさっさと終わらせようと12手で自玉が詰むように指したから」  
 「ひどい勝負だな」  
 「おいおい、相手の意図に気づいてとっさに端歩を突いた5手目を褒めてくれよ」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・12手で詰んだ
- ・後手は1枚の歩を最奥まで突いた
- ・5手目は端歩を突いた

### 出題のことば (担当 DD++)

後手の手は9択、さてどの歩でしょう。

### 追加ヒント

飛車先の誘惑を振り切って角側の端歩を使いましょう。

### 推理将棋78-1 解答

▲4八玉 ▽1四歩 ▲3八玉 ▽1五歩  
 ▲1六歩 ▽同歩 ▲1七桂 ▽同歩不成  
 ▲2九玉 ▽1八歩不成 ▲3八金 ▽1九歩成  
 まで12手。

詰上り図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	爵	参	王	参	爵	科	皇		一
	飛							角		二
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩		三
										四
										五
										六
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩		七
	角						金	飛		八
香	桂	銀	金				銀	王	ス	九

持駒 なし

後手の手は条件上9種類しかありません。しかも、2～7筋では九段目に紐がつけられず、開き王手も不可能なので実質3択。19歩成まで、89歩成まで、99歩成までの3つです。

心理的には89歩成を考えたくるところ。しかし問題となるのは79の銀。これを78に上がると89に利いてしまうのでダメ。68に上がると玉の移動の邪魔になり、▲68銀▲78金▲69玉▲79玉▲59金▲69金で12手の詰みには間に合うものの端歩は突けません。ではこの銀を動かさないとすると玉は99へ行くしかなく、▲96歩▲97桂▲98香と玉移動4手で、あと1手間に合いません。8筋歩は実は誘い手なのです。

1つの筋に歩を指し続ける手順の場合、実は11手以上だと8筋より1筋の方が使いやすいのです。この問題も例に漏れず、桂をどける▲16歩▲17桂と玉移動3手、入口を塞ぐ38金で12手にぴったり間に合います。この6手の着手順で3番目が▲16歩になるのは作意順だけです。

それではみなさんの短評をどうぞ。

斧間徳子「たしかに後手の指し手は無気力という感じですね。」

■成ることすら面倒くさがるどころまで先手に読まれていました。

NAO「一直線。他の筋ではだめですか。なるほど。」

■ 2つめの条件を「7手目は銀」にすると8筋の方の作品もできます。

久保貴史「既出でないのが不思議な問題。発見賞ですね。」

■ 手順自体は新しいものではありません。同手順でもわざわざ歩を不成のまま突いていくことまで明かした問題は他にないと思いますが。

金少桂「初めて暗算で解けてしまった。9択というより実質3択ですよ。」

■ 初級問題としてこれくらいの問題の投稿がたくさんあるといいんですけどね。

飯山修「片方の指し手限定の作品は非常に助かります。初級は常にこのレベルでお願いしたい。」

■ そうしたい意思はあふれるほどあるのです。あとは投稿があれば……。

まさ 「一枚の駒を動かすだけ」は意欲をそそられるテーマで、初期に色々作例がありますね。この詰上がりも mixi 第141番(Norman氏作。2007年10月)で既出ですが、懐かしい感じがします。」

■ 一枚問題はまささんの十八番でしたね。手順先例もたぶんまささんだろうと思って探していたので発見に手間取りました。

諏訪冬葉「最終手に紐がついていることを考慮すると後手の手は3択。最終手△89歩成までの12手だと端歩が突けなかった。」

■ 8筋の場合端以外でも歩は突けませんね。

チャンプ「これは良い作品ですね。簡素な条件で上手く仕上がっていると思います。」

■ 2つめの条件を「5手目は玉頭の歩を突いた」とか「同の手2回」とかにすると8筋の誘いを強めることもできたのですが、初級用という条件下でどれがよかったですかね。

占魚亭「事実上、2択ですね。」

■ 8筋じゃ端歩は関係なさそうという読みですかね。それとも1筋と9筋でまとめて1つ？

はらたつ 「38金で一発アウト。」

■ むしろ38金以外では一発アウトにならないのが不思議かも。

枅彰介「歩だけでは詰まないで後方に飛香の援軍がある3択。にも関わらず正解の1筋は最後に考えた私の勘の悪さ。」

■ 勘を外しても迷宮入りはしないのがこの手の問題の優しさ。

S.Kimura 「8筋か9筋で「無気力試合」ができないかと考えてみましたが、9筋は88角が邪魔？8筋は79銀と玉を入れ替えるのが難しい？」

■ 9筋は無理ですね。8筋は玉を69経由で動かすのがミソ。

くるぼん「一直線の攻めを支えるのは飛車だけとは限らない。」

■ むしろ飛車では面白くないので作品としては少なかったり。

はなさかしろう 「さすがに3択ですが、78銀が89に利くのを案外振りほどけないなど、なかなか巧妙です。」

■ 1筋と8筋で全く違う手順なので限定は楽でした。

ジェシー「なぜか9筋よりも1筋の方が詰まなそうに見える不思議。」

■ そうですかね？ 歩を打ちなおして八段目まででも98歩不成より18歩不成の方が詰みやすいのですが。

波多野賢太郎「私もやっぱり第一感飛車のいる8筋の歩でした。この手順を、「無気力試合」

として出題したのがうまいなあと思いました。」

■この局に限らず推理将棋はまともに指す気があるか怪しい手順が多いのですが、それでもこの手順はひどい。ということ。

渡辺「事実上9択ではなく1、8、9筋の3択。玉が遠くに行く暇がないだろうと思い8筋を中心に考えたが大外れで中級より時間がかかった。」

■端歩というのが8筋の可能性を薄めているつもりだったのですが、効果なかったですかね？

隅の老人B「♪徐州、徐州と人馬は進む、徐州居よいか、住みよいか♪、これは鼻歌で解けました。」

■なるほど、突かれている歩からするとまさにそんな感じかも……。

平井康雄「さすがにノーヒントで解けました。「5手目の端歩」が余詰・手順前後を一掃しているわけですね。」

■76歩 77桂との非限定も消して一石三鳥。

Pontamon「実質3択なので推理抜きで左の筋から解き始めたら、正解は最後の筋でした。このような軽快な駒さばきを見習いたいものです。」

■中級の駒捌きは見事なものでしたよ。

正解：21名

飯山修さん S.Kimuraさん 斧間徳子さん  
金少桂さん 久保貴史さん くるぼんさん  
小山邦明さん ジェシーさん 隅の老人Bさん  
諏訪冬葉さん 占魚亭さん チャンプさん  
NAOさん 波多野賢太郎さん はなさかしろうさん  
はらたっとさん 平井康雄さん  
Pontamonさん まささん 柊彰介さん 渡辺さん

78-2 中級 Pontamonさん作  
駒台の駒を摘み間違えた結果は？ 11手

A「この前の対局、後手は2筋の駒（初形で2筋にあった駒）だけしか指さない、変な指し方の相手だったよ。」

B「で、何手で勝負がついたの？」

A「11手だよ。」

B「じゃ、勝ったんだ。」

A「いや、負けたんだよ。10手目の初王手の時、駒台に3つ駒があって、合い駒に歩以外の駒を摘んだつもりだったけど実は歩で、それを合い駒の場所の68に打ったから二歩反則負けだったんだ。」

B「でも、最後の二歩の手を除けば、5回の着手で駒を3つ取ったんだ。大駒が成って大活躍だったのかい？」

A「いや、駒成りはなかったよ。」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・初王手に対して、合い駒として打った11手目の▲68歩で二歩反則負け
- ・後手の着手は2筋の駒（初形で2筋にあった駒）のみ
- ・終局時、先手の駒台には2つ駒があり、少なくとも1つは歩以外の駒
- ・駒成りはなかった

### 出題のことば (担当 DD++)

詰みでの終了ではないのでいつもの常識は捨てましょう。

### 追加ヒント

後手角は31に引いてから出動。そのためには先手角の助けが必要です。

推理将棋78-2 解答

▲7六歩 ▼2四歩 ▲4四角 ▼2五歩  
▲5三角不成 ▼2六歩 ▲3一角不成 ▼同角  
▲2六歩 ▼8六角 ▲6八歩 まで11手 (反則負け)。

詰上り図



9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	銀	玉	玉	科	皇			一
	飛								二
歩	歩	歩	歩		歩	歩		歩	三
									四
									五
	歩	歩					歩		六
歩	歩		歩	歩	歩	歩		歩	七
			歩				飛		八
香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	九

持駒 銀歩

推理将棋のほとんどは詰みで終局となりますが、中には例外もあります。千日手問題や打歩詰問題はおもちゃ箱でも出題されたことがあります。二歩反則負けというのはおもちゃ箱では初。いつもの感覚を捨てることになるので戸惑った方も多いかと思います。

さて、二歩は合駒の打ち間違いということですから、10手目は飛角香のいずれかによる王手です。しかし後手の着手できる駒は最初に2筋にいた駒だけです。22の角が動いたか、28飛を奪って打ったか。それぞれ検討してみましょう。

まず22角を動かす方。先手の▲33角不成ができれば△同角から△77角不成で話は早いのですが、初王手という条件があるのでこれは無理。ならば角以外で33の歩をどけようとするも、駒取りが3回必要＝5手目7手目9手目で駒を取る必要があるので無理。ということで角の進路を変更するしかなさそうですね。33と73の歩が取れず、93の歩を取っても仕方がない、となると5手目▲53角不成が唯一の道であるとわかります。

この間後手は2筋の歩を無為に進めるしか許されず「▲76(96)歩△24歩▲44(97)角△25歩▲53角不成△26歩」まで確定。7手目も駒取りであることと後手角を世に放つことを考えると「▲31角不成△同角」は自然に手が伸びるところです。ここで初手に7筋の方を突いてあれば10手目△86角が王手になって11手目▲68銀打と間違えての▲68歩が成立します。あとは9手目に駒を取ればいいだけで、全く無為に思えた後手2筋歩を取って作意となります。

念のため28飛を打つ順も考えてみると、「▲26歩△24歩▲27飛△25歩▲58玉△26歩▲38

銀△27歩不成▲同銀△78飛▲68歩」と二歩だけなら間に合うことは間に合いますが、先手は歩1枚取るのがやっとなので、条件を満たすことはできませんでした。

それではみなさんの短評をどうぞ。

Pontamon (作者)「確認のコメントが2つも付いていて、反響に戸惑ってしまいました。私の処女作なので、条件の書き方が不慣れで判りにくかったですかね。」

■普段と目的が違うことが戸惑いを誘ったというのが大きいと思います。それを抜きにしても、解答者にきちんと伝わらなさそうな場合に修正をお願いするのは担当の仕事なので……。

斧間徳子「双方の角の動きがトリッキーで味がある。26歩と歩を取る手も好感触。」

■普通はこの条件は2筋歩を無駄に突く消化不良な手順になるのですが、うまくまとめました。

NAO「最初2筋にあった駒のみというのはわかりやすい。重ね打ちの二歩は見たことないですね。一間跳びの二歩で負けたことがありました。」

■最初ここにあった駒というのは、解きやすくなるのですが書き方が難しい。

金少桂「最初文章を深読みしすぎて、先手の28飛車を後手に献上する手順から考えてしまいました(←推理将棋に毒され始めたか?)。ところで昔、歩の前に歩を重ね打った棋士がいましたよね。今回に関しては、そもそも合駒なんて打たなくても・・・と思いますが。」

■推理将棋を指しているのは上手な人とは限りません。下手な人が守りを固めようとすると守備駒を金銀5枚にしようとするかも。

飯山修「この作品のように反則を条件にすれば余詰、非限定等で埋もれた作品も少し前でカットする事で日の目を見る可能性があるかも。」

■推理将棋の場合、美醜を別にすれば余詰修正や非限定消しは簡単なので、そういう使い方を

する理由がないんですよ……。

まさ「どうやれば王手を掛けずにかつ先手が駒を取りながら 22 角を世に出せるか考えれば容易。」

■その発想が出て、私は 32 歩不成まで進める順から読んでしまいました。

諏訪冬葉「最初「動かす時点で 2 筋にあった駒」と勘違いして、「解無し」を証明してしまいました（33 歩を取る手段がない）。さらに、なぜか「持駒は歩と歩以外を 2 枚」と勘違いしていました。」

■その勘違いが起きやすいんですよ、この条件。

チャンプ「少し考えると不可能に思える作品。5、7、9 手目に駒を取らないといけないので、そこだけ追求した結果解けましたが、53 角不成～31 角不成のルートが妙に見えにくく、下手をしたら迷宮入りするところでした。「x 筋の駒の着手のみ」という条件は史上初ではないでしょうか？鮮やかな手順と斬新な条件かつ柔軟な発想に大変感心しました。」

■「x 筋の駒の着手のみ」は何度か見たことがあるような気がします。Pontamon さんはそれとは別に独自に思いついたかもしれません。

占魚亭「なぜ角を取らない（児○清さん風に）」

■「68 番に歩が飛び込んだーっ！」

はらたっと「33 が初王手縛りでダメで最終手が 77 角ではないことに気がつくのに時間がかかりました。」

■問題を 68 歩にしているのがそのミスディレクションを誘っていてニクイ。

枡彰介「頭の中で▲96 歩から入ったら全く解けず、盤に並べたら▲76 歩～▲44 歩に気づきました。」

■そうそう、案外見落としがちなんです、31 角不成のための 44～53 のルート。

S.Kimura「後手の角を 86 に持ってくることを考えたら、すんなり解けました。」

■よくぞ 77 でなく 86 と考えられました。

くるぼん「3 枚目の駒をてにいれるのは 歩とは一步竜王のよう。」

■先手の歩よりもわざわざ 3 回進んできた後手歩に価値あり。

はなさかしろう「荒々しく力強い手順。台風一過のような、突き抜けた解後感が楽しいです。」

■詰みに向かう順だとなかなか味わえない解後感。

ジェシー「ただの着手限定とっていた 2 筋の歩突きが、実は持駒条件のための必要手順だったんですね。」

■無駄手消化を無駄手に見せないやり口がとても処女作とは思えません。

波多野賢太郎「最初、初王手の意味を勘違いしていて、3 手目は 3 三角成でもいいのではと思っていました。二歩みたいに反則負けで終局というのも面白いですね。」

■先後が指定されていない場合は双方合わせて考える、というのが推理将棋の共通ルールです。一度そういう暗黙のルールをどこかにまとめるべきなのですけど。(と数年前から言っている気がします)

渡辺「持駒 3 枚の条件が巧い。33 角は王手になって駄目なので 5,7,9 手目が駒取であることを中心とした簡単な論理で解けて好感。(28 飛を奪っての飛による王手は 11 手では到底無理なので考えなくて良い)」

■余詰が明らかに存在しないので、安心して出題できます。

隅の老人 B「44 角から 53 歩を取るのが妙。反則負けとは！ 創り手もいろいろ考えますね。」

■打歩詰は既存のフェアリールールにあるせいか作例は多いですが、二歩を使うとはね。

平井康雄「後手が自主的に動かせるのは2筋の歩のみ。先手の33角もありえないことになれば、これ以外にないですね。」

■持ち駒条件がなければさすがにこれしかないわけではないですが、それでもこれが本命。

正解：20名

飯山修さん S.Kimuraさん 斧間徳子さん  
 金少桂さん くるぼんさん 小山邦明さん  
 ジェシーさん 隅の老人Bさん 諏訪冬葉さん  
 占魚亭さん チャンプさん NAOさん 波多野賢太郎さん  
 はなさかしろうさん はらたとさん 平井康雄さん  
 Pontamonさん まささん 枘彰介さん 渡辺さん

78-3 上級 チャンプさん作  
 超一流のスイーパー

13手

女「貴方の腕を見込んである男と対決して欲しいの。」

男「美女の頼みを断るほど俺は野暮じゃないぜ。」(おっ！すげえもっこりちゃん！)

女「将棋のルールは知ってるかしら？」

男「玉に狙いを定めて撃ち抜けばいいんだろ？」  
 (え？なに？将棋で対決なの？)

女「まあそうね、お願いできるかしら？」

男「任せておきな・・・これでどうだい？」(えーい、こうなったらヤケクソだ！)

女「流石ね、13手目▲51角不成、初王手で見事に詰みに討ち取ったわ。」

男「美女との約束は必ず守る主義でね。」(え？なにがどうなった？)

女「7手目の飛打ちが唯一の駒打ちとは無駄がないわね。」

男「どんな敵でも一撃で仕留めるのが俺の流儀さ。」(ひよっとして上手くいった？)

女「8手目の小駒の手に対して9手目に同じ筋への小駒の手で合わせたところが素敵だったわ。」

男「照準を合わせた時点で俺の勝ちは決まっていたな。」(それっぽく言うておこう)

女「ありがとうおかげで助かったわ、ところで報酬はいくらかしら？」

男「金なんて要らないさ、報酬は君の身体

で・・・。」(それでは、いただきますーす)

？「この、もっこり男がああああああ～～天誅うううう～～【100tハンマー発動】」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・13手目の▲51角不成が初王手で詰んだ
- ・7手目の飛打ちが唯一の駒打ち
- ・8手目と9手目は同筋への小駒の着手

出題のことば (担当 DD++)

スイーパーというのもちよっとしたヒント？

追加ヒント

84玉に対し51角不成までですが、後手金は初形のまま。なぜ同金で王手解消できないのでしょうか？

推理将棋78-3 解答 担当 DD++

- ▲7六歩 △4二飛 ▲3三角不成 △6二玉
- ▲4二角不成 △7四歩 ▲1四飛 △7五歩
- ▲7七桂 △7三玉 ▲2四角不成 △8四玉
- ▲5一角不成 まで13手。

詰上り図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	爵	雫	角	雫	爵	科	皇		一
								馬		二
歩	歩		歩	歩	歩		歩	歩		三
	王							飛		四
		歩								五
		歩								六
歩	歩	桂	歩	歩	歩	歩	歩	歩		七
								飛		八
香		銀	金	王	金	銀	桂	香		九

持駒 歩

13手という長丁場で、着手のヒントは後半ばかり。前から順に考えると非常に大変な思いをします。このような場合はある程度必要なことを読んだら詰みの形から推理するのがコツとなります。まず7手目飛打ちということから5手目に飛を取ったことがわかります。それが可能な箇所は32、42、62、82ですが、32では角を成

る必要があるため後で角不成が指せません。また 62 では王手がかかってしまうので、飛を取った場所は 42 か 82。ここまで読んでおいた上で、▲51 角不成までにどのような形があるかいろいろ考えてみましょう。

まず単純に考えると 62 玉か 42 玉の形。この場合 51 角に飛で紐をつける必要があります。ところが駒打ちが飛 1 枚しか許されない＝事実上後手は駒を打てないので、玉周りを塞ぐ駒が足りません。頑張っても 13 手では「▲76 歩△74 歩▲55 角△42 玉▲82 角不成△32 銀▲31 飛△51 金左▲21 飛成△41 銀▲73 角不成△52 銀▲51 角不成」くらいが限界で、守備金をどかす手がありません。ということでこの線はダメ。

すると次に候補に上がるのは 33 玉や 73 玉などで後手の合駒を不可能にしておく形。しかし、先程以上に後手の手数が増えます。数えてみましょう。まず飛を 5 手目に取らせるのに△74 歩か△42 飛で 1 手。玉を 73 か 33 に運ぶのに歩突き含め 3 手（82 で飛を取らせて 73 玉は角移動が間に合いません）。金 2 枚と銀 1 枚どかすので 3 手。これで合計 7 手で既に手数オーバー。どれか 1 手を先手が代理をして「▲76 歩△42 飛▲33 角不成△62 玉▲42 角不成△74 歩▲51 飛△72 金▲66 歩△73 玉▲71 飛成△32 金▲51 角不成」くらいまでは頑張れますが、詰みにはあと 1 手▲65 歩を指す手が足りません。

では 84 や 24、などと考えても手数は足りなくなる一方なので発想を根本から転換しましょう。金や銀をどかしきれないなら、金が利いていようが銀の合駒ができようが詰んでいけばいいわけです。つまり、これが開き王手か両王手であれば金銀をどかす手は必要ありません。もちろん狙うは飛の利きを通す詰みですが、後手の駒打ちが許されないのがそれが可能な場所は限られます。

それらを順に考えてみると 13 手でちゃんと詰むのはただ 1 箇所、84 玉を 14 飛と 51 角の両王手で詰ます形だけです。後手には△42 飛と渡して△74 歩△75 歩を飛の利きを通す分まで突いて△62 玉△73 玉△84 玉。先手は▲76 歩▲33 角不成▲42 角不成と飛を取り、▲14 飛と打ってから▲77 桂か▲86 歩で 85 地点を押さえ、▲24 角不成から▲51 角不成。これらを王手条件

や小駒条件を満たすように並べ替えればようやく作意にたどり着きます。

それではみなさんの短評をどうぞ。

チャンプ（作者） 「この作品は北条先生に許可を頂いて投稿しました(嘘)ただ、例のアニメを見ながら創作したのは事実です(笑) 作品のイメージは拳銃(そのまま)です。銃を奪う（5 手目）構える（7 手目）照準を合わせる（9 手目）撃鉄を起こす（11 手目）引き金を引く（13 手目）という流れになります。それなりに上手く表現できたのではないかと考えています。ノーヒントだと少し難しかったかも知れませんが、皆さん如何だったでしょうか？」

■そして一発必中（初王手で詰み）というわけですね。

斧間徳子「手順前後の利かない順は？と考えれば序の 5 手は必然。7 手目に有効な小駒の手は 77 桂くらいしかない・・・と考えて解にたどり着く。14 飛の限定打が爽快。」

■確かに、どうしても手順前後が残る順は読み飛ばせば最初からある程度絞れますね。それでもまだかなり大変ですが。

NAO 「難問。同じ筋に小駒の条件が絶妙で、8 手目 75 歩とは気づかない。詰みに役立ちそうな 77 桂の顔を立てるには？と考えて 84 玉形の両王手が見えました。スーパーよりそのままスナイパーの方がしっくりきます。」

■スーパーになっているのは元ネタの方の設定から来ているのでいかんとも。

金少桂 「すみません、かなりズルしました。7 手目に飛車を打つには 5 手目に飛車を取らなければならないのですが、82 で飛車を取る手順は、後手の 2 手目と 4 手目が 74 歩-75 歩以外限定できないので、読んでいません。62 で飛車を取るのはどうしても王手がかかってしまうので、42 で取るのがこれで確定。さらに、9 手目の先手の小駒で間に合いそうなのが 77 桂以外思いつかないのでこれも固定して考えていました。これだけわかってはかなり難しかったんですがね(汗)」

■ こういうのを俗に「裏読み」と言います。難問を解くのに有力な方法ですが、使い過ぎると自分が作った問題の検討がまともにできなくなる諸刃の剣。

飯山修 「飛車打ちの感触抜群。こんな手は秒に追われて何か指さなければいけない時の着手以外無理。」

■ 秒に追われていたら 12 手の局面から 1 手詰であることに気づくのも難しそう。

まさ 「手順前後なしを勘案すれば序の 5 手はほぼ確定。先手が小駒を動かす以上玉が上部に来るのは確実。そこまでわかっているこの両王手はなかなか気づかない。雄大な作意に感服。」

■ 74 歩をもう 1 回突くところまで考えないと 14 飛が 84 まで利くのに気づきませんからねえ。

諏訪冬葉 「51 に利いている金 2 枚をどかすのはあきらめました。」

■ はい、それが正解です。

占魚亭 「飛車は五段目に打つと思っていて悩んでいましたが、ヒントを見て両王手の筋に思い至りました。「○ティーハ○ター」は大好きな作品のひとつです。」

■ 先月は同じような条件で五段目でした。さすがにそれで同じ形を 2 回連続はありません。

はらたっと 「ヒントで 84 玉がわかった後なら 75 歩すぐ見えるんだけどなあ。

■ そういうのをすぐ見えるようにするのがヒントというものなので。

枘彰介 「ヒントのおかげで 14 飛、24 角の形から両王手と気づき解けました。」

■ 両王手は言われるとすぐわかるのになかなか解けないもの。

S.Kimura 「このところ、角で串刺しが続いていたので、飛車の空き王手、もしくは両王手で

詰ませることをを予想し、2 段目辺りでもがいていました。ヒントを見るまで、玉が 4 段目まで行くとは思いませんでした。」

■ 後手が駒打ちできないため、二段目でやろうとすると▲62 角▲52 飛△92 玉の形を作らないといけないので逆に大変です。

くるぼん 「最終ヒントがなければお手上げでした。両王手に必要な 75 歩をひねりだすのが大変でした。」

■ 私も 75 歩がなかなか出てきませんでした。

はなさかしろう 「2 四角不成がタイミング良く決まり、予想を裏切らない派手な手順が素敵です。」

■ このスケールの大きな両王手が 13 手で成立するんですものねえ。

ジェシー 「この詰め上がりは全然見えませんでした。」

■ 最初からこの詰め上がりが見えていたらすごすぎですよ。あるいは作ったことのある人。

波多野賢太郎 「問題の会話が遊び心満載で面白かったです。でも、詰み形や手順が凝っていて、締め切り前ヒントなしでは解けませんでした。何となく両王手だとは思ったんですがねえ〜。」

■ おお、両王手見抜いてましたか。すごい。

隅の老人 B 「ヒント、「51 角生が何故？取れぬ」、ハハーン、これは両王手。堀内孝雄じゃないけれど、これは「サンキュー」です。」

■ 鍵になるところのほんの一步手前を出すのがいいヒントだというのが 3 年担当しての研究成果。

平井康雄 「これはヒントがなければ全然わかりませんでした。最終手両王手がわかれば何とかなります。」

■ 言われてみれば両王手のヒントだけで十分でしたね。二段目だと同玉、三段目は歩で使えな

い、縦利きや五段目以下は両王手にならない、と全てすぐに消えるので。

**Pontamon** 「簡単と思いきや、8手目と9手目の小駒指定が曲者。(と思ったのは私だけかな)この両王手は詰み形の候補として浮かんでいた(解く側じゃなくて作る側の目線で。飛を打つ筋が自ずと限定される)のに、玉は大駒でも小駒でもなく、8手目に△73玉とできないので早々に「4段玉は無し」と結論したのが敗因でした。そのせいで、9手目の非限定を意味あるものにしなければいけないので桂の2段跳ねで51角成りなら詰み筋はあるのですが…。解くのも作るのも手順前後は考慮不足です。」

■小駒条件がなくてもこの形以外詰まなさそうですが、何かうまい手があるのかな……？

-----  
正解：19名

飯山修さん S.Kimuraさん 斧間徳子さん  
金少桂さん くるぼんさん 小山邦明さん  
ジェシーさん 隅の老人Bさん 諏訪冬葉さん  
占魚亭さん チャンプさん NAOさん 波多野賢太郎さん  
はなさかしろうさん はらたっ  
とさん 平井康雄さん Pontamonさん まささん 枘彰介さん

-----  
総評

斧間徳子「今月は平均的な難易度か。二歩反則問題というのも面白いですね。」

■あとはどんなネタがあるでしょうね。二手指し問題は未出かな？面白く作るのは大変そうですが。

チャンプ「3年以上前のことになりますが、とある作品をmixiで発表したところミニベロさんからこんなコメントを頂きました。「この順に目が行くとは、将来楽しみです。仮に、手順・条件がすべてバッティングしても、気にすることはありません。どんどん作って発表することが大切です。」かれこれ何作創作したか自分でも把握してませんが、Pontamonさんにも同じ道を歩んで頂きたいですね。」

■そのとおりですね。正式な場以外(mixiなど)

でなら余詰にもある程度寛容ですし、どんどん出してみましょう。

はらたっ「新しい二歩問題。作者の次回作はいかに。」

■さーて、どれから使おうかな。

枘彰介「久しぶりに解答しました。ヒントがないと上級問題は難しいですが、また解答したいです。」

■今後もぜひぜひよろしく願いいたします。

はなさかしろう「▲7七桂は上級へのヒントなのかなあ、などと、練習問題も楽しいですね。」

■あ、ばれた。

波多野賢太郎「今回も3問ともそれぞれ面白さが違って、とても楽しめました。反則負けはいろいろな局面が考えられるので、これからの出題が楽しみです。」

■担当としては気を使う事が多くて大変なんですけどね、反則問題。

隅の老人B「最近、齢のせいか何故か早朝に目覚める。起き出して、ごそごそするのも、傍が迷惑。で、床に横たわったままで推理将棋を考える。その成果の解答、合っているかな？です。」

■私は寝る前に布団で考えることが多いですが、本当に三上とはよくいったもので。

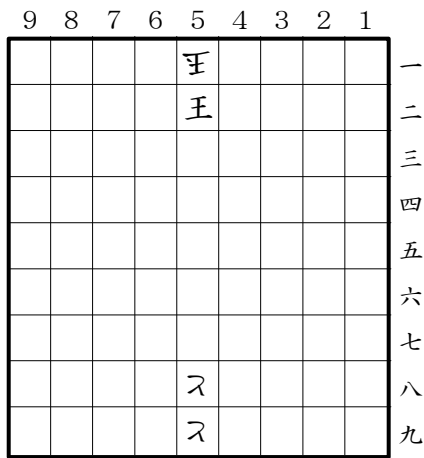
-----  
推理将棋第78回出題全解答者： 21名

飯山修さん S.Kimuraさん 斧間徳子さん  
金少桂さん 久保貴史さん くるぼんさん  
小山邦明さん ジェシーさん 隅の老人Bさん  
諏訪冬葉さん 占魚亭さん チャンプさん  
NAOさん 波多野賢太郎さん はなさかし  
ろうさん はらたっとさん 平井康雄さん  
Pontamonさん まささん 枘彰介さん 渡辺  
さん



# カピタン展示室 No.24 金小桂さん

出典：おもちゃ箱 発表：2014年6月  
玉はルート65リーパー



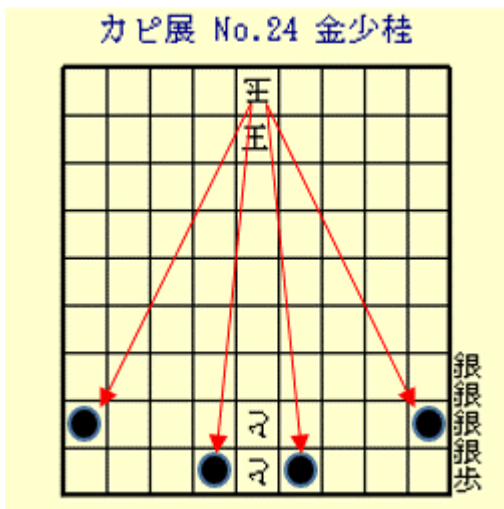
持駒 銀4歩

出題時のコメント：

広いようで意外に狭い 10手台

### √65リーパーの動き

横に1縦に8、横に8縦に1、  
横に4縦に7、横に7縦に4の  
16箇所のマスに動ける  
(途中に駒があっても飛び越せる)



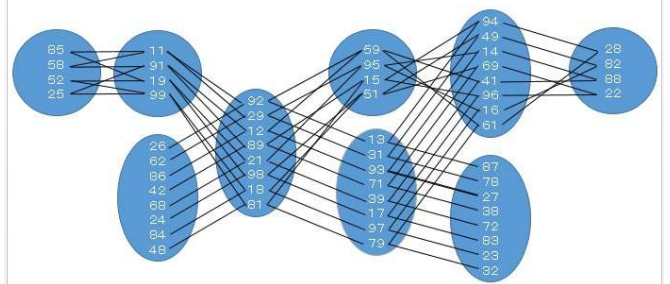
リーパーとは、桂馬のように間に駒があっても飛び越して移動する駒の総称。これに対して飛角香のように合駒が利く駒は、総称してライダーと呼びます。いずれもチェスから来た用語です。

√65リーパーは、将棋盤の隣のマスとの距離を1として、長さルート65のマスに動けるリーパー。計算すると、横に1縦に8、横に8縦に1、横に4縦に7、横に7縦に4の組み合わせだけがルート65になります。

本作では、51玉と52玉が√65リーパー。例えば51玉なら、18、98、49、69に動けることになります。最大で16か所動ける√65リーパーですが、9x9の将棋盤ではだいたいの利きは盤の外、案外不自由なんですね。

といっても、イメージがわからないので、81か所のマスにいる√65リーパーがどこのマスに移動できるのか、図にしてみました。

ルート65リーパー(1, 8と4, 7)



見てわかるように、動けるマスは1か所から4か所。上にでてくる56のマス以外では全く動けません。

このグラフで詰方の利きなどで実際には動けないマスをつぶしていけばよいのですが、本作は持駒を単純に打っていただけでは駒が足りなくて追い詰められません。打った駒の活用も含めて考える必要があるわけです。

結局はしらみつぶしで最長手順を求めるしかないさそう。最長で19手が正解です。

42銀、69玉、78銀、22玉、33銀不成、96玉、87銀、15玉、24銀不成、94玉、83銀、28玉、29歩、61玉、72銀成(不成)、79玉、88銀、32玉、23銀成(不成)または33銀成(不成) まで19手

これ以外の逃げ方はすべて17手以下で詰むことを確認しておきましょう。

(51玉) 42銀、(A)69玉、78銀、(B)2

2 玉、3 3 銀不成、9 6 玉、8 7 銀、(C) 1 5 玉、  
2 4 銀不成、(D) 9 4 玉、8 3 銀、2 8 玉、2 9  
歩、6 1 玉、7 2 銀成・不成、(E) 7 9 玉、8 8  
銀、3 2 玉 2 3 (3 3) 銀成・不成迄 1 9 手  
(作意)

(D) 8 1 玉、7 2 銀、7 9 玉、8 8 銀、3 2  
玉、3 3 銀成迄 1 5 手

(D) 8 9 玉、7 8 銀、9 1 玉、9 2 銀、2 5  
玉、2 6 銀迄 1 5 手

(C) 1 7 玉、1 8 歩、8 3 玉、7 4 銀迄 1 1  
手

(B) 7 1 玉、7 2 歩、3 8 玉、2 7 銀迄 7 手

(A) 4 9 玉、3 8 銀、8 2 玉、8 3 銀、1 6  
玉、2 7 銀、(a) 9 5 玉、9 4 銀成、(b) 1 4 玉、  
1 5 歩、8 8 玉、9 7 銀迄 1 3 手

(b) 2 1 玉、3 1 銀成、(c) 3 9 玉、2 8 銀、  
7 2 玉、8 3 成銀迄 1 5 手

(c) 6 8 玉 7 7 銀迄 1 3 手

(b) 2 9 玉、3 8 銀、1 1 玉、2 2 銀、(d) 9  
2 玉、9 3 成銀、2 7 玉、2 7 銀迄 1 7 手

(d) 8 5 玉、9 5 成銀迄 1 5 手

(a) 9 7 玉 9 8 歩 2 3 玉 3 3 銀成迄 1  
1 手

(A) 9 8 玉 8 7 銀、(e) 1 7 玉、1 8 歩、8  
3 玉 7 4 銀迄 7 手

(e) 2 4 玉、2 5 銀迄 5 手

(A) 1 8 玉、2 7 銀、(f) 9 7 玉、9 8 歩、2  
3 玉、3 3 銀成迄 7 手

(f) 8 4 玉、8 5 銀迄 5 手

作者「発想の原点は、だいぶ前にどこかで見か  
けた、5-Leaper と  $\sqrt{50}$ -Leaper の問題です。  
他にもできる数字はないかと探したところ、 $\sqrt{65}$   
が面白そうだったので、これを用いて創って  
みました。

盤の広さに対して玉の移動距離がぎりぎりなの  
で、広いようでも窮屈な玉です。

本作の狙いは、この玉を、不足気味の 5 枚の手  
駒で如何に追い詰めるかというパズル的な手順  
です。

カピタン展示室が最近特に寂しい気がします。  
なので、この作品をきっかけにまた賑わって  
くれると嬉しいです。

特に、 $\sqrt{65}$ -Leaper 玉は面白い作品がいろいろ  
創れそうなので、これに触発された方々が新た  
な面白い作品を創ってくださると作者冥利に  
尽きます(他の方が創ったものも解いてみたい

すし)。」

動き方が意外に限定されているので、おもしろ  
い作品ができる可能性はいろいろありそうです。  
人間にはかなり先が読みにくいから、短手数  
の作品や趣向詰などがいいかも。

それでは、みなさんの感想を。解答到着順です。

キリギリスさん：

ちょっと感覚がつかめませんでした。

小山邦明さん：

このルールの作品を初めて取り組みましたが、  
収束形は想像できず解き方もわからない  
ので、枝分かれ手順を丹念に読む事にしまし  
た。ただ、途中の着手の選択もいろいろあ  
るので大変でした。結局、最長になったと  
思われる手順で解答しますが、最終手が非  
限定になってしまったので不正解のような  
気がします。このような作品をどのように  
して創作や検討をされているのかに興味  
を持ちました。

☆お見事正解です。最終手の非限定、この程度  
はあまり気にしないでいいかと思います。フ  
ェアリーの検討、協力詰系はだいたい fm (On  
site Fairy Mate) でできますが、本作は自  
力で検討するしかないので大変。上田吉一  
さんが詰パラ 700 号の表紙のこぼで書か  
れている夢のソフトが欲しいですね。

隅の老人 B さん：

爺には新ルール、理解できず。解説を待つ。

S.Kimura さん：

1 か所にしか移動できないマスがあるので、  
そこに追い詰めたら詰みそうですが、持駒  
だけでは捕まりそうになく、断念しました。

池田俊哉さん：

「広いようで意外に狭い」とはいえ、玉の  
動きが頭に入らず、結局はエクセルに分岐  
を打って全検することに...

単純な駒打ちにとどまらず、銀が何段階  
か活用できたのはうまい

占魚亭さん (3 7 銀まで 1 3 手解)：

自信ありません。リーパー系は苦手です。

ご確認いただき、1 3 手で詰んでいる  
ようでしたら手順をご連絡ください。

やぶいりさん：

飛距離が大きくて疲れました。  
たくぼんさん：  
銀の活用がポイント。それにしても利きが分  
かりにくいわ

☆たくぼんさん、最後2手書き忘れてますよ。  
実質解けているので正解として扱いました。

-----  
カピタン展示室No. 24 解答：5名  
正解4名

池田俊哉さん 小山邦明さん たくぼんさん  
やぶいりさん  
-----

### 解答募集締切一覧

ネットでのフェアリー詰将棋の解答募集締切一  
覧です。締切日が早いもの順です。解答先は各々  
異なりますのでお間違えにないように。

### 8月15日(金)

#### 第63回 WFP 作品展

フェアリー作品 20題

#### Fairy of the Forest #40

協力詰 3題

### 9月15日(月)

#### 第64回 WFP 作品展

フェアリー作品 13題

推理将棋 1題

### 第30回詰将棋全国大会

日時：  
平成26年7月20日(日) 11時～17時  
場所：  
川崎産業振興会館  
会費：  
全国大会・1500円 懇親会・5000円  
\*女性・高校生以下は本大会会費500円のみ  
で懇親会は無料

### 第17回詰四会会合

日時：  
平成26年8月24日(日) 13時～17時  
場所：  
香川県宇多津町 ユープラザうたづ  
会費：  
500円(学生・女性 無料)

### 【あとがき】

妖精賞が詰パラ7月号で発表されました。受  
賞作は以下の通り。

短編部門：2013年9月号⑨

伊達悠作 アンチキルケばか自殺詰6手

中編部門：2013年6月号④

神無七郎作 限定ばか詰 39手

長編部門：2013年12月号④

橘圭伍作 キルケばか自殺詰 174手

受賞者の皆さんおめでとうございます。橘さ  
んと七郎さんは WFP でもお馴染みですので嬉  
しいですね。伊達さんは高校時代にネット上で  
フェアリー作品を多く発表されていたので  
今後 WFP にも投稿頂けると嬉しいです。

受賞3作の内、2作が氾濫発表作で共に出題  
番号が④。これは何か法則性があるのかと先月  
の氾濫④はどんな作品か見てみると・・・ふ  
ふふ。さて来年の妖精賞はどんな作品が受賞す  
るでしょうか。

たくぼん

2014年 第73号

### Web Fairy Paradise

非売品

平成二十六年七月号

平成二十六年七月廿日発行

発行所 愛媛県新居浜市

発行兼編集人 須川卓二

発行所 Web Fairy Paradise 編集部

問合先 takuji@dokidoki.ne.jp